
心を見る

たけ10005

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
心を見る

【コード】
N0025F

【作者名】
たけ10005

【あらすじ】
幼稚園児の一つ人生を知る。家族からの孤立に直面し、宙そらは何を学ぶのか!?

今回は相沢宙、幼稚園児のご紹介…

宙は幼稚園の保育さん秋田則代に軽いイタズラで咎められた。

「コラ！ダメでしょ！？宙君！人の物盗っちゃ！」

普段は、すぐ目を逸らす宙は、今回だけは、目をパチクリして聞く。

「則代先生は、なんで目を見て話せるの？」

則代は一瞬なぜ今さら？と疑問に思ったが、子供は常に予測不能な事をする。当たり前前のことを疑問に思う。

「後ろめたいこと、不安なこと、気後れしないことあればできるんだよ！」

宙は目を見開き、叫ぶ

「嘘だ！」

今度は則代が目を見開いた。しかし、冷静に返す

「ほら、目を見て話せた」

宙は、あつと気がつく。

則代は続ける

「嘘だ！ってというのは綺麗な言葉じゃないけどね、本心を伝えあえば目を見て話せるんだよ…」

宙は何が悲しいかわからない。

でも…

「そんなことって、そんなことって…なんで泣くの！？なんで僕は泣いてるの！？わからない！わからないよう！」

宙は膝をつく。

「お母さん、幼稚園に入ってから、すごく殴るんだ。『僕、何か悪いことしたの？』って聞いても、『うるさい！うるさい！うるさい！』ってホウキで殴るんだ。『もっと殴りたいか！？』って、殴るんだ。もう、どうして良いかわからなくて、泣いて『ごめんなさい！許して！』って言っても、『泣くな！私だっておばあちゃんに

殴られたんだよ！泣いたらもつと殴られたんだよ！』ってさらに怒るの」

「そんな…ひどい…」

則代は口に手をあてる。

「お父さんも、”ウワキ”ってことをしてるんだって。家に帰って来ない日もあって、そんな夜はお母さん、『お父さんは私たちを裏切ったんだよ！』って怒るし…僕、信頼してた両親に裏切られて、どうしたら良いかわからなくて…僕は、いない子なの？」

則代は宙に対する宙の母に悪意を感じた。

父は知ってるのだろうか？唯一の信頼して、愛し愛されていたであろう宙の父に対する絶望感と憤りいらいを…

愛おいしいけど憎らしい。

抱きしめられたいくもあり、逃げ出したくもある。

宙にとって親はそんな感じだ。

全部、話した。

「つらかったね…悲しかったね…苦しかったね…子供だって善悪わかるのに…。でも大丈夫。私だけは味方だから…」

則代がそう言っつて宙を抱きしめて、触れる手は温かった。

宙は本当に味方なんだ…と思っつて、涙が止まらなかった。心の底から声をあげて泣いた。

捨てた感情はまるで自ら湖の底に落としたみたいで、悲しむわけでもなく、悔やむわけでもなく、ただぼんやりと湖の底に墮ちてゆくのを見ていた。

その大切さに気づいた時、愚かさに気づいた時、我に返った時、ただ泣きじゃくった。

溺れたらどうしよう。見つからなかったらどうしよう？

それは、後付けだ。本当は泳ぐ気などなかった。

幼児の宙には理屈はわからない。ただ、悲しい衝動でしかなかったが、本能が理解した。”救われた”のだと。

見上げた空は蒼かった。深い蒼。どこまでも、続く空。それは心。

それは...愛...

(後書き)

この話は、私の小1〜中3の家庭事情を元に哲学したフィクションです。良い先生には出会えませんでした

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0025f/>

心を見る

2010年10月10日07時05分発行